

留学体験談

プログラム名	交換留学プログラム：語学（2025年度）
留学先	ロチェスター工科大学（アメリカ、ロチェスター）
留学期間	2025年8月～2025年12月の約4か月間
学部学科/専攻 学年	情報フロンティア学部 メディア情報学科 2年

子供のころから英語を話すことに憧れを感じており、海外での生活を通してリスニング力とスピーキング力を向上したいという思いのもと、ロチェスター工科大学での語学留学への参加を決意しました。また、異文化環境下での生活を通して自分の将来の視野を広げることも理由の一つです。

プログラム内容は、「English Language Center (ELC)」での英語講義がメインでしたが、私の場合、講義に加えて毎週木曜日に日本語会話テーブルにて現地学生と交流したり、週末にはロチェスター市内及び近隣都市に小旅行に行ったりしました。

授業は Reading&Writing, Listening&Speaking, Lang Analysis&Acc, Intractions の4つがあり、特に Listening&Speaking では発音に加えてプレゼンスキルも学びました。秋学期が始まる前にはグローバルスカラー生全員でのナイアガラの滝への小旅行や、秋学期が終わった後はアメリカ在住の友人とニューヨーク市街への小旅行といった充実したスケジュールが組まれていました。

アメリカに滞在して感じたことの一つとして、アメリカでは時短を意識しているものが多いと感じました。キャンパス内の全施設がモバイルオーダーに対応していたり、洗濯機で洗ったものはそのまま乾燥機で乾かすといった効率化が日本よりも目立つのが印象でした。一方で、シャワー室に浴槽はなくシャワーのみで、体を清潔にするためだけの施設といった印象がありました。日本では食事や入浴も楽しむものであるが、アメリカは単なる行為としてとらえており、このような他国の価値観は多角的視点を持つことに繋がりが、ひいては問題発見、問題解決に活かすことが出来ると思います。



一部活動では先生や友人のサポートがあったものの、講義自体の会話、質問や街中での注文などは全て自分で行う必要がありました。最初はネイティブスピーカーのスピードに圧倒され、自分の意見を正確に伝えられずもどかしい思いをすることもありました。ジェスチャーを交えながら積極的に話しかけることで、次第に自信を持ってコミュニケーションが取れるようになりました。

この研修を通じて、語学は単なるツールであり、大切なのは「伝えようとする意志」であると学びました。RITで得たこの積極性と自信を糧に、今後は専門分野の学習に加え、さらに高度な英語コミュニケーション能力を磨き、国際的な舞台で活躍できるエンジニアを目指したいと考えています。また、留学経験者として留学生のサポートも行うことで、コミュニケーション力の上昇と問題対処、加え本学の国際交流がより活性化する一助になりたいと考えています。